

第 19 回 猪名川自然環境委員会 議事概要

- 日 時：平成 23 年 10 月 21 日（金）17:00～19:00
- 場 所：大阪マーチャンダイズマート 2F 展示Fホール
- 出席者：森下委員長、池淵委員、斉藤委員、菅原委員、田中委員、服部委員、
松井委員、竹門委員（オブザーバー）
（猪名川河川事務所）谷川所長、綾木副所長、野田課長、松井課長、荘司課長、
（(財)河川環境管理財団）青木、出口、中西、本山
傍聴：5 名

■ 議事次第：

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事
 - 1) 構造検討部会の報告
 - イ) 平成 23 年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について
 - ロ) 簡易魚道について
 - 2) 河原再生試験施工地モニタリング調査について
 - 3) 北伊丹レキ河原再生工事モニタリング調査について
 - 4) 椎堂河道掘削工事調査結果について
 - 5) 魚道の遡上について
 - 6) その他
4. 閉会

■ 結果および主な意見：

【平成 23 年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について】

○各工事について

- ・ 生息している生物に対して、締め切って生物を救出することなどの影響を最小限にすることを中心に考えているが、それも大切であるが、工事後に生物が棲みやすいようどれだけ元の状態に戻せるかが大切である。生き物が生息できる環境については、竹門先生に相談する。
- ・ 汽水域は、魚が海へ出てから最初に戻る場で、親が卵を産みつける場でもある。
- ・ 底生動物は調査中であるとのことであるが、どのような種類が出現するか、後日報告してほしい。

○猪名川・藻川河道浚渫工事 …①

- ・ 水際の形状をできるだけ斜めにしたりジグザグ状の形状にして、環境を多様にしていくことが大切である。切土の法面を極力緩く出来ないか検討してほしい。
- ・ 生物の生息に加え、水質・景観の観点を加えることが必要である。
- ・ 工事中の濁水発生に対して、最小限にするように対応が必要である。

○名神藻川橋・尼崎市上水道藻川水管橋構造物保護 …②

- ・ 橋脚等の保護を進める場合に、（表面を緻密に施工するのではなく、）生物が棲めるように少し隙間を作ることを試みてはどうか。

○天津地区低水護岸補修工事 …③

特になし

○利倉橋、猪名川サイフォン、猪名川第 2 サイフォン、猪名川第 3 サイフォン構造物保護 …④

- ・サイフォン等の保護のために既設護床工を撤去後の構造物表面に魚の隠れる場が必要である。
- ・ヤモリが棲めるように、サイホンの再生部分に、(表面を緻密に施工するのではなく)少し隙間を作ったり、野生動物の生息できる環境を作ることが望ましい。

○名神猪名川橋、阪急神戸線猪名川橋梁、北部浄化センター伏越 構造物保護 …⑤

- ・ヤモリは、乾燥に弱いので、乾燥しないようにしておくことが大切である。新しい橋脚の保護を進める場合に、(表面を緻密に施工するのではなく、)少し隙間を作を試みてはどうか。

○伐採区域

- ・ニセアカシア(ハリエンジュ)の伐木した後の状況がどの様になっていくかを、確認することが必要である。

【簡易魚道について】

- ・魚道の計画は、①最初の1段のハードルを低くする、②助走をつけるための水深が要る、③魚が滞筋から上流に進んでいくよう頭を突っ込みやすいようにする、という3点が必要である。
- ・魚道の件については、田中先生に確認して進めていく。魚が滞筋から上流に進んでいくようにする。

【河原再生試験施工地モニタリング調査について】

- ・切り下げることによりアレチウリは入ってきていない。カワラハンミョウ等の再生は難しい。
- ・従来生息していた生物の再生ができるまでは、年月がかかる。
- ・河原再生に対しての評価をどのように捉えるか。裸地としていくための要因について、今後の調査を継続させることが大切である。
- ・河原にするためには、上流からの土砂の供給が必要である。猪名川の場合には土砂の供給がないので、(代替案として、他の掘削工事などから発生した)土砂を(上流に)置くと、河原再生に繋がるのではないかな。
- ・都市河川の中に自然景観を残すことが難しい。

【北伊丹レキ河原再生工事モニタリング調査について】

特になし

【椎堂河道掘削工事調査結果について】

特になし

【魚道の遡上について】

- ・アユの遡上期間は、もっと早い時期から遡上しているのではないかな、年度にまたがる3月4月ごろの遡上も考えられる。
- ・(ハゼ科の)スミウキゴリ、ウキゴリ、ウキゴリ属は、ウキゴリ属として整理した方が良い。
- ・ウキゴリの遡上が少ないが、蜆集調査結果も少ないことから、そもそもこの付近でウキゴリガが少ないことも考えられる。そのそのために調査結果から個体数が多く示されているテナガエビの遡上で評価をしても良いのではないかな。
- ・(アユの遡上結果について)目視調査結果数と、網による捕獲数とでは、10倍程の違いがあるとされている。
- ・(淀川と猪名川の調査数にこだわらなく)猪名川にアユが遡上してきている結果が大事なことである。

【全体について】

- ・単一の目的だけでなく、複合的に事業を考えることが必要である。複数の目的(事業)をもって取り組むことの方が、より多くの効果が得られるのではないかな。

以 上